

多様な仲間が育ててくれた



「勉強でも仕事でも、目標を設定して乗り越えていくのが楽しい」と言う米良はるかさん

きで、テスト勉強もゲームをクリアするように楽しむタイプ。中学時代の家庭教師だった慶応大生へのあこがれもあり、慶応大学経済学部へ。

幼稚園から大学院までを擁する成城学園の歴史は1917年、小学校創設から始まった。中学校は6年間の一貫教育。

叶えたい夢や取り組みにかかるお金をインターネット上で募るしくみ、クラウドファンディングの「READYFOR」。代表取締役の米良はるかさん(28、2006年卒)は小学校から高校まで成城学園で過ごした。大学まで進める環境のため、受験勉強とは別の、体験学習や演劇などにのびのび取り組む校風を楽しんだ。

高校2年の時、「外の世界を見たい」と受験を決めた。もともと勉強好き

前に見学した体育祭で、幼稚園児から大学生までが共に競技する一体感が、強く印象に残ったという。

中学でも高校でも、生徒たちは年齢や性別の違いに関係なく仲が良かった。保護者とも距離が近く、友達の家で遊ぶと父や母も輪に入るのが当たり前。「写真のことはカメラマンのあのパパに聞こう」といふ具合に、様々なプロの大人と直接話げできました。友達も保護者にも育ててもらったと感じます。

いざいざもあった。中学1年の時、クラスの男子に仲間はすれにされた。「それなら女の子と遊べはいいや」と楽しく過ごしました。悩むより、どうすれば楽しめるかを考えてきた。

「成城では偏差値ではない、多様な価値観と出会えました。それぞれがやりたいことを開花させているのを見て大いに刺激を受け、私もチャレンジできました」
中学受験塾を展開する日能研関東代表取締役の小嶋隆さん(47、88年卒)は中学から成城へ。受験



小嶋隆さん。「成城の仲間は、今でも誰かが声をかけると20人くらいすぐに集まります」

「悪いことをしても、先生たちはいきなりルールを押しつけることはなく、繰り返した時には厳しく罰せられた。『善しあしをまず自分で考えさせてくれた。今考えると、すごく大事なことでした』
大学卒業後、銀行やシンクタンクを経て、父が創業した日能研関東へ。「成城で過ごした学生時代はとても充実していました。当時の自分に声をかけられるとしたら、『そのままでいいよ』と言います」